

港区立東町小学校
平成 29 年度 授業改善推進プラン

教育目標

○明るい子 ○よく考える子 ○やりぬく子 ◎思いやりのある子

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

・幼・小・中学校を見通した指導 ・朝学習 基礎基本の徹底（国語・算数・国際科フォニックス）・研究の日常化
 ・自分の考えをもって取り組む主体的な学習 ・聞き合い、学び合いのある学習活動
 ・算数科の充実（1・2年 TT指導、3年以上 少人数指導） ・夏季学習教室 サマースクール ・漢字検定
 ・国際学級における指導体制の整備（学級経営、全教科領域を通じた国際理解教育、国際科学習など）

昨年度の成果と課題

・校内研究で「国際学級における問題解決的な学習のあり方」を推進した。学習形態や担任とESTとの授業の進め方等が明らかになってきた。
 ・基礎基本の時間や算数でTTや少人数指導を行ったので区学力テストでは、どの学年も目標値を上回った。
 ・区学力テストの結果から見ると理科が全国平均を下回っている。基礎学力の定着や科学的思考の育成が必要である。
 ・区学力テストや校内研究からみると書く力や根拠を示して説明する力が不足している。
 言語活動の充実（記録・説明・討論など）が必要である。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○ESC授業の設定 ○ESC児童の英訳教材の準備 ○特色ある教育活動 ○日本文化の時間の設定 ▲学校や地域の特色を活かしたオリンピック・パラリンピック教育の推進	○「東町学びのやくそく」 ○基礎・基本の時間の充実 ○算数 TT・少人数習熟度別指導の実施 ▲国際科の習熟度別学習の実施 ▲東京ベーシックドリルの活用 ▲ICTの効果的な活用	○学力テスト結果の分析 ○国際科アセスメントの実施 ○保護者・地域による学校評価の実施 ○教職員による学校評価の実施 ▲児童の実態に応じた成績表の作成 ☆特別の教科「道徳」評価の充実	☆「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」を研究主題に国語科・体育科を通して校内研究を推進する。 ☆特別の教科「道徳」に向けての研修 ▲特別支援教育の理論・実践的研修の実施 ▲六本木アカデミーにおける研修会の実施	○地域の人材を活用したり地域の学習をしたりする授業 ○三回の学校公開授業 学校説明会の実施 ○地域防災協議会と連携した安全指導 ○学校評議員会の実施 ▲道徳授業地区公開講座の実施

具体的な取組

○ESC児童の英語による主要教科の授業を学年に応じて設定する。 ○外国籍児童に対してワークシートや教材の英語版を準備する。 ○国際科において各学年習熟度別学習をする。 ○算数のTTや少人数、ESTとのTTによる個に応じた指導を行う。 ○日本文化の時間を設定し、日本の文化を学ぶ。 ○International Assemblyの実施 ○学校や地域の特色を活かしたオリンピック・パラリンピック教育を行う。	○「東町学びのやくそく」の徹底 ○朝自習で漢字・読書・計算・フォニックスを行う。 ○夏休みに補習やサマースクールを行う。 ○国際科において、各学年習熟度別コースを設定し指導する。 ○理科SAS・図書RASとの授業を実施する。 ○ICTを活用、また児童が興味をもてる資料を提示し、資料を読み取る力や考える力を養う。	○学力テストの分析結果を日々の授業に生かす。 ○国際科 ユニットごとにアセスメントを行い、児童の形成的評価を行う。 ○教職員による学校評価を行い、改善していく。 ○児童の実態に応じた評価・記述を行う。 ○目標を明確で理解しやすいものに改善し、一人一人の成長を促す評価の充実を図る。	☆校内研究 国語科・体育科における研究授業の実施、評価、改善を行う。 ○対話や討論する言語指導の充実を図る。 ○特別支援アドバイザーによる教員向けの研修を行う。 ○六本木アカデミーの各校と連携して、幼小中一貫教育に向けての研修を行う。	○地域の人材を活用したり、地域の教材を学習したりする機会を増やす。 ○年3回、学校公開、年1回の道徳授業地区公開講座を行う。 ○地域防災協議会と連携して安全指導を行う。 ○学校評議員会を実施し、連携していく。
---	---	--	--	---

港区立東町小学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 区学力テストの正答率からみると、2・4・5年生は全国値を超えているが、3・6年生は、全国値より少し低い。領域「書くこと」では、目標値を下回り（2年 3.1 ポイント、3年 7.6 ポイント）5・6年生も全国平均を下回っている（5年生 6 ポイント、6年生 2.8 ポイント）漢字の読み書きや自分の考えを書くなどに課題がある。 日々の学習においては、友達の考えをしっかりと聞き取り、文にまとめたりすることが苦手な児童が多い。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取ったり、読み取ったりしたことをまとめたり、自分の考えを書かせたりなど、日常的に文章を書く機会を多く設定する。 漢字の定着を図るため、新出漢字を丁寧に指導したり、小テストを定期的に行ったりしていく。 多くの文にふれる機会として、「東町30」を活用し、RASと連携して読書活動を励行する。
社会	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習からみると調べ学習などには進んで取り組むが、グラフや地図から比較・関連付けて情報を読み取り、まとめる力が十分とは言えない。 課題の解決に向けて効果的に資料を集めたり、分析したりする力が十分だとは言えない。 区学力テストでは、総合的にみると4、5年生は目標値を少し上回っているが、6年生は、目標値を0.3ポイント下回っている。特に「社会事象についての知識・理解」は、目標値 64.0%に対して 62.6%と下回っている。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、児童が興味をもてる資料を提示して、資料を読み取る力や考える力を養う。 考えたことや読み取ったことを自分でまとめる時間を設定し、また、全体で共有することにより学習したことをまとめる力を養う。 単元で学習した知識・用語などの振り返りの時間を確保し、知識の定着を図る。
算数	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 区学力テストでは、どの学年も目標値を上回っているが、区平均値より下回っている。（2年生 1.4 ポイント、3年生 -5.3 ポイント、5年生 2.4 ポイント、6年生 5.3 ポイント） 領域では、「図形」（2年生 4.4 ポイント、5年生 4 ポイント）「数と計算」（3年生 5 ポイント）目標値を下回っている。 日頃の学習では、児童一人ひとりが既習事項を生かして課題に取り組んだり、答えを出すことに満足し、式や図などで根拠を明らかにし説明したりすることが十分できているとは言えない。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図るために東京ベーシック・ドリルを活用して既習事項の定着を図る。 算数的活動を取り入れ、問題解決学習の定着を図る。 ペアや小グループでの話し合い活動を取り入れ、一人一人の考えを論理的に表現する場を設定する。
理科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の学習では、実験や観察には意欲的に取り組んでいるが、きちんと記録することが十分でなく、また学習課題に対して予想や結論を書く際に自分の考えをまとめる力が十分身に付いているとは言えない。 区学力テストでは、総合的にみると4・6年において目標値を下回っている。（4年 1.8 ポイント、6年 3.3 ポイント）特に4年生は、「自然事象についての知識・理解」、「観察・実験の技能」6年生は、「科学的な思考・表現」に課題がある。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察の課題を明確にし、課題→予想→方法→結果→結論→まとめの一連の流れを繰り返し行い、定着させるとともに学年に応じたノートの書き方や表現方法（文章・図）を指導していく。 学習したことを東京ベーシック・ドリルやテストで繰り返し確認し、知識の定着を図る。 実物に触れたり、ICT教材を活用したりして知識の定着を図る。
生活	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 体験や観察を通して気付いたことを他の児童に分かりやすく伝える・表現する力が十分身に付いているとは言えない。 経験不足のため、ものを工夫して作ることが十分身に付いているとは言えない。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 体験的活動を通して気付きの質を高めるために交流する場を工夫し、「比べる」「繰り返す」「試す」活動を取り入れる。 体験活動やものづくりなどから自分が気付いたことを次の単元につなげていけるように活動の連続性を考えていく。

港区立東町小学校 各教科の授業改善推進プラン

音楽	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 音色を大切に、互いの音を聴き合いながら演奏し、美しい合奏を目指す態度の育成が必要である。 音程の正確さ強弱表現、発声方法など、歌唱に伴う向上が必要である。 音楽が表わす風景や心情を想像しながら鑑賞する力を養う必要がある。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動で発声練習や楽典的内容を取り上げ、基礎となる技術や知識を身に付けさせる。 音色に集中する時間を確保し、「聴く」活動の充実を図るとともに鑑賞教室や外部指導員による特別授業を活用し、一流のものに多く触れさせ、感性を養う。
図工	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 各学年において、技能（はさみ・のり、カッター、筆）が十分身に付いていない児童がいる。 発想や活動の見通しをもって制作に取り組むことが苦手な児童や制作の丁寧さに欠ける児童もいる。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 材料の使い方の工夫や技法の資料を掲示し、学習したことをいつでも確認できる環境づくりをする。 基礎的基本的な技能がしっかり身に付くように繰り返し指導するとともに楽しく豊かな発想が引き出せるような題材を精選する。
家庭	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 技能（玉結び・玉止め・ミシン）が身につけていない児童がいる。 習得した知識や技能を生活の中で生かそうとする実践的な態度が育っているとは言えない。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 5・6年生共通で使用できる「裁縫の手引き」の掲示を家庭科室に常時掲示し、児童が必要なときに参照できる環境づくりをする。 ミシンの学習時に教科書（ミシンの使用方法）を必ず開き学習することを徹底する。 家庭との連携を図り、学習したことを生活の中で活用する機会を多くとったり、長期休業中の宿題に入れたりする。
体育	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 全学年を通して、帰国子女やE S C児童は運動経験が乏しく、苦手な意識をもっている。 体力テストでは、特に筋力や柔軟性、持久力が低い。 体育の学習では、活動を工夫して技能を身に付けたり、高めたりしようとする意識が低い。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> I C Tを活用して学習の見通しをもたせ、体の使い方を理解させる。 基礎体力の向上を図るため、体育の時間に体を多く動かす補助運動を毎時間取り入れ、児童一人一人の運動量を増やす。
国際	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラス（スタンダード）で教師の指示が理解できなかったり、本時のキーワードが習得できていなかったりする児童がいる。 人数のバランスが悪かったり、国際科の学習に対する意欲が低い児童がいたりする。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 担任もNTとのコミュニケーションを通して二人で授業づくりをしていく。 基本的には和訳はしないが、必要に応じて本時の学習を確実に習得できるように支援する。 ユニットごとにアセスメントを行い、児童の英語力を把握し、クラス分けやよりよい授業づくりへ生かす。